

## 大会ウェブシステムと無線LAN環境を利用した日本海洋学会大会の運営事例

石井, 大輔  
九州大学応用力学研究所技術室

松島, 啓二  
九州大学応用力学研究所技術室

<https://hdl.handle.net/2324/1786450>

---

出版情報 : 九州大学応用力学研究所技術職員技術レポート. 14, pp.79-83, 2013-03. Research Institute for Applied Mechanics, Kyushu University

バージョン :

権利関係 :

# 大会ウェブシステムと無線 LAN 環境を利用した

## 日本海洋学会大会の運営事例

石井 大輔, 松島 啓二

### 要旨

日本海洋学会福岡地区の大学関係者が主体となって、2011 年度日本海洋学会秋季大会が 2011 年 9 月に九州大学・筑紫地区で開催された。学会大会のウェブサイトならびに参加登録／決済システムにかかる管理・運用は、従来から外注委託によって賄われてきたが、本開催では外部業者に頼らず新規に学会大会用ウェブシステムを自主開発し（石井・松島, 2013）、それらを運用することで大会運営に務めた。

本稿では、同学会大会にかかる参加登録／オンライン決済統合型ウェブシステムと学内無線 LAN を利用した学会大会の運営事例について紹介する。

キーワード：大会ウェブシステム・無線 LAN 環境・大会運営

### 1. はじめに

2011 年 9 月 26 日から 30 日まで、九州大学・筑紫地区で 2011 年度日本海洋学会秋季大会が開催された。2000 年に福岡地区で開催された以来、実に 11 年ぶりとなる本開催には、5 日間で約 450 名もの関係者が参加した。筆者は、今回初めて大会事務局の一員として学会大会の運営に携わることになった。

学会大会のウェブサイトならびに参加登録／決済システムにかかる管理・運用は、従来から外注委託によって賄われてきた。しかし、本開催では外部業者に頼らず新規に学会大会用ウェブシステムを自主開発して対応することになった。今回、2011 年度日本海洋学会秋季大会におけるネットワーク／システム関連の管理・運営を行なうにあたり、参加登録／オンライン決済統合型ウェブシステム（石井・松島, 2013）と学内無線 LAN を利用して、大会運営にかかるネットワーク／システム環境を構築した。本稿では、その詳細について学会大会の運営事例を交えて報告する。なお、本開発に至った経緯や実際の開発内容・システム構成などについては、石井・松島（2013）を参照されたい。

### 2. ウェブシステムと無線 LAN 環境を利用した大会運営の事例

従来の大会事務局は、ネットワーク環境を利用した積極的な大会運営を特段行っていないことが多く、せめて大会参加者が会場およびその周辺で対外通信ができるように配慮して、ネットワーク環境（無線 LAN 環境）を準備する程度であったのではないかと推測する。しかし、それだけでは本開催における独自性や面白みに欠けると感じ、以下のことを創案し具現化した。

#### 2-1. 講演情報リアルタイム表示システム

本大会では、Fig. 1 に示すように 3 会場に分かれて各口頭セッションが行われた。一般に、各会場における研究発表の進行状況は様々であり、会場によっては予定通りに進行するところもあれば、徐々に時間が押し過ぎて予定通りに進行されないところもある（座長の時間采配だけのせいではないが）。

大会参加者は、会場間を跨いで研究発表を聴講したい場合、大会プログラムを確認して聞きたい発表が始まる時間前に当該会場を訪れるのが普通だと思われる。しかし、聴講したい研究発表の会場を訪れたのはよいが、まだ全然始まる様子がなかったり（予定が押していたり）、進行が早くて既に始まっていたりすることに時折遭遇する。各会場が同じ建屋の同じフロア内とかであれば、元の会場に戻ったり別の会場に足を運んだりして時間を有効活用できるが、なかなかそういう条件で開催されることは多くない。実際、今回も部屋の広さや収容人数などの制約から、3 つの講演会場は同じ建屋内であっても階数が異なる教室とホール、ならびに別の建屋の会議室が利用された。

そこで、各会場における研究発表の進行状況がどこに居ても即座に把握できるように、大会ウェブシステムとネットワーク環境を利用した講演情報リアルタイム表示による情報配信を試みた。情報配信媒体としては、大会ウェブサイトと各講演会場の入口付近に設置した大型ディスプレイを想定した。

まず、各会場におけるネットワーク環境として、学内無線 LAN を活用して応力研敷設の大会ウェブシステムサーバへアクセスできる通信網を確立する（大会参加者の対外通信用も兼ねている；Fig. 1）。そして、各会場内に常駐する座長補助（会場係）は、講演ごとに都度の状況（講演番号・進行具合）を大会ウェブシステムサーバへ情報転送する。具体的には、ノート PC やタブレット機のブラウザ（ウェブページを閲覧するためのソフトで、Microsoft Internet Explorer や Mozilla Firefox など）を利用して大会ウェブサイトの操作画面にログインし、Fig. 2 に示す [現在の講演情報] 設定画面にて現在の状況を入力する。更新担当者（会場係）は、講演者が変わるたびに講演番号ならびに進行具合を選択して [更新] ボタンを押すことで、現在の講演情報を更新していく（講演日と講演会場については、最初に一度設定しておけば都度変更する必要はない）。なお、講演の開始前や終了後には講演番号の選択肢で「（準備中）」や「（終了）」を選択して更新すれば、「（ただいま準備中です）」や「（本日の講演は終了いたしました）」と表示されるように設計した（Fig. 2）。

例として、講演情報リアルタイム表示機能を利用した大会運営例のイメージ図を示す（Fig. 3）。第 1 会場で磯野カツオさんの講演が始まったら、同会場内にいる座長補助（会場係）は、Fig. 2 の操作画面にて情報を更新する。すると、Fig. 4 に示す「現在の講演情報」画面が更新され、大会ウェブサイト内や講演会場前の大型ディスプレイに表示されるので、Fig. 3 のように第 3 会場での他の講演を聴講している人やロビーで休憩中の人などにとっては、もしかすると有益な情報になり得るかもしれない。

今回、大会参加者が自由にどこからでも各会場の講演状況をリアルタイムに知ることができるように、講演情報リアルタイム表示機能を搭載した大会ウェブシステムを運用した。このことが、学会参加者にどれだけ有意であったか（便利であったか）は定かではないが、後日に参加者から回収したアンケート結果によると一部好評な意見が散見されたので、大会運営に少なからず貢献することができたのではないかと考える。

## 2-2. USB-NAS を介した講演ファイル自動転送／同期システム

Fig. 5 に、USB-NAS を介した講演ファイル自動転送／同期システムをネットワーク統合した大会運用例のイメージ図を示す（技術的に大したことはない）。従来までの学会大会でよく目にしたことがあるのは、講演会場の入口前に受付担当者がいて、そこで講演用電子ファイル（例えば、PPT や PDF ファイルなど）を事前に渡し（動作確認も含む）、セッションごとや半日分の講演データが揃った段階で、その受付用 PC を講演用 PC として取り替えるといった運営形態である。時折、それすらもすっ飛ばして、発表順番が来た時にその場で直接講演用 PC にデータを転送する光景も見かける（意外に手間取って時間をロスする場合あり）。

本開催において、講演にかかる上記の運営形態は手間がかかることに加え、時間のロスにも繋がり正常なプログラム進行の妨げになりかねないと判断し、今回は学内無線 LAN を通じて受付用 PC および講演用 PC のどちらからでもアクセス可能な共有ドライブ（ネットワークドライブ）を準備して、講演にかかる大会運営を試みた。実際には、各会場内に設置した無線 LAN ルータに USB メモリを指し、同ルータの機能を利用して USB メモリを NAS（ネットワークに直接接続して使用するファイルサーバ）に見立て、共有ドライブ（USB-NAS）を構築した。当然、第三者のアクセスによる情報漏洩の防止や大会運営に支障が出ないように、NAS にアクセスする際はログイン情報（ID・PW）を使った認証方式を採用することで、セキュリティ面に十分配慮している。

発表者は、会場前の受付係に講演用ファイルを渡し、受付用 PC にて動作チェックを行なう（あとは本番を待つだけ）。受付係は、受領した講演ファイルを共有ドライブ（USB-NAS）にコピーする。これにより、会場前の受付用 PC と講演用 PC の間でネットワークドライブを介した講演ファイルの共有化が実現するので、セッションごとにわざわざ PC を交換するような運用（講演進行）をする必要がなくなる。ついでに、講演用 PC へのバックアップも兼ねて、ネットワークドライブ（USB-NAS）からローカルドライブ（講演用 PC）に講演ファイルを自動転送させ、万が一のネットワーク不調が生じた場合にも速やかに対応できるように配慮した（ネットワークドライブのファイルを使って講演した時に、通信の遅延や遮断が起こると面倒であったので、実際の発表時は講演用 PC のローカルドライブに保存された講演ファイルを使用してもらった）。

大会ウェブシステムと無線 LAN 環境を利用した日本海洋学会大会の運営事例

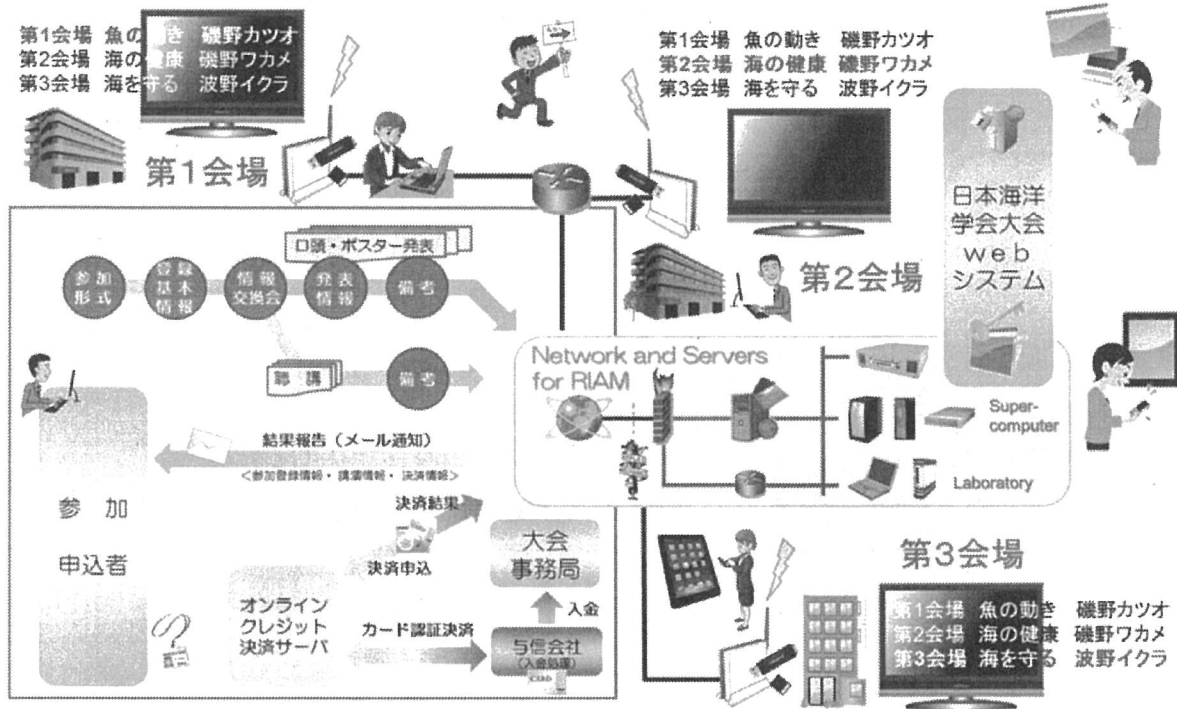


Fig. 1 日本海洋学会大会運営にかかるウェブ/ネットワークシステムの概略図

The screenshot shows the '現在の講演情報 設定画面' (Current Presentation Information Setting Screen). The date is 2013-02-09 (土) 00:08:49. The interface includes a navigation menu with 'ログアウト', '登録者リスト', and '画面拡大表示'. The main content area shows the status of three venues:

- 会場1 (会場1詳細):** 10-15分早く進行しています (100) 題目: 九大 太郎(九大応力研)、●応力 一郎(九大応力研)
- 会場2 (会場2詳細):** (ただいま準備中です)
- 会場3 (会場3詳細):** (本日の講演は終了いたしました)

At the bottom, there is a table for entering presentation information:

講演日	講演会場	講演番号	進行具合
4/1(日)	会場3		

Below the table is a list of presentation numbers (講演番号) from 201 to 212. To the right, a '進行具合' (Progress Status) dropdown menu is open, showing options like '90分以上早め', '25-30分早め', '20-25分早め', '15-20分早め', '5-10分早め', '5-10分遅れ', '10-15分遅れ', '15-20分遅れ', '20-25分遅れ', '25-30分遅れ', and '90分以上遅れ'.

Fig. 2 各会場における現在の講演情報を入力するための大会ウェブシステム設定画面

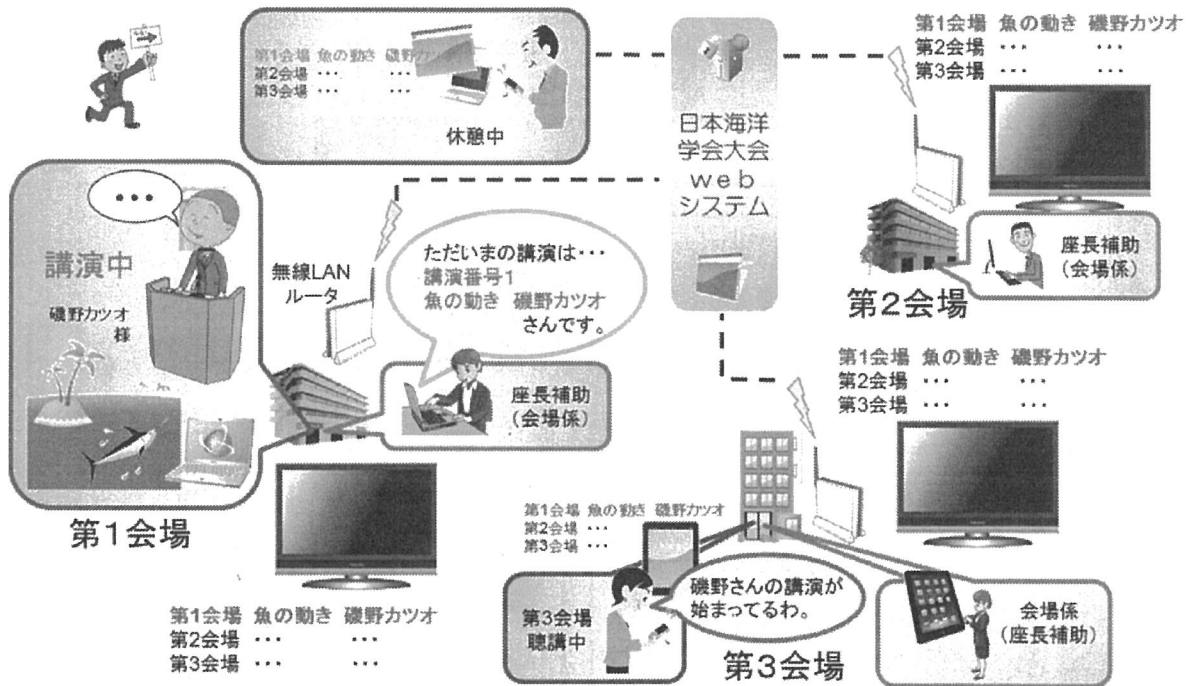


Fig. 3 講演情報リアルタイム表示機能を利用した大会運用例 (イメージ図)

現在の講演情報	
<p>■ 第1会場 (総合研究棟 C-CUBE 1F 筑紫ホール)</p> <p>(216) 魚の動き</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 磯野 カツオ (あいうえお大学)</li> </ul>	予定通りに進行しています
<p>■ 第2会場 (共通管理棟 3F 大会議室)</p> <p>(216) 海の健康</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 磯野 ワカメ (かきくけこ女学院)、フグ田 タラオ (さしすせそ高専)</li> </ul>	25-30分早く進行しています
<p>■ 第3会場 (総合研究棟 C-CUBE 3F 301-303)</p> <p>(326) 海を守る</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 波野 イクラ (たちつと商船)、波野 ノリスケ (なにぬねの出版社)</li> </ul>	30分以上遅れています

Fig. 4 学会大会時における講演情報リアルタイム表示画面の一例

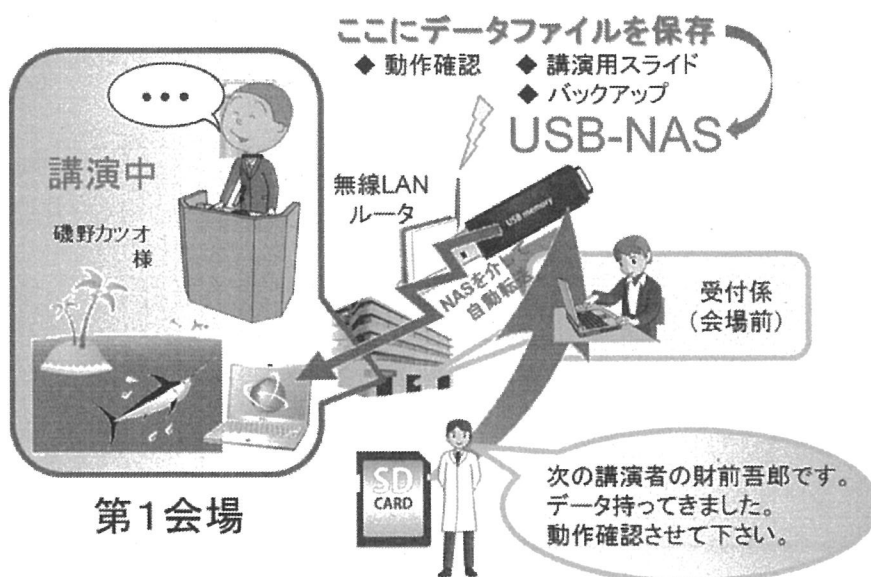


Fig. 5 USB-NAS を介して講演ファイル自動転送/同期システムをネットワーク統合した大会運用例 (イメージ図)

### 3. おわりに

今回初めて、海洋学会大会の事務局の一員として大会運営に携わった。新規に開発した参加登録/オンライン決済統合型大会ウェブシステム (石井・松島, 2013) と学内無線 LAN を融合した 2011 年度日本海洋学会秋季大会のネットワーク/システム関連の運営は、大会の全体運営と同様、特にトラブルが生じることもなく無事閉会を迎えることができた。今思うに、これが万が一、同システムおよびネットワーク関係で不具合が発生し大会運営に重大な支障が起きていたら、一体どうなっていたのだろうか。本当に何事もなかったのが幸いである。

本ウェブシステムは、今回の運用実績に加えて、九大技術職員が主宰する九州大学技術研究会 (石井, 2012) でも既に運用済みであるので、将来において九大が主催校として九州地区や全国区の技術研究会を開催することにでもなれば (石井ほか, 2012)、是非ともこれらの技術と経験を活かしてみたい。

### 参考文献

- [1] 石井大輔・松島啓二 (2013) : 日本海洋学会の大会運営にかかる参加登録/オンライン決済統合型ウェブシステムの開発, 九州大学応用力学研究所技術室技術レポート, 14, 印刷中.
- [2] 石井大輔 (2012) : 九州大学技術研究会の創設と開催を経て, 九州大学応用力学研究所技術室技術レポート, 13, 99-115.
- [3] 石井大輔・中野智・安永誠・松島啓二 (2012) : 九州大学技術研究会の将来展望とその実現に向けた取り組み, 九州大学応用力学研究所技術室技術レポート, 13, 137-141.

### 謝辞

この度、2011 年度日本海洋学会秋季大会実行委員長である九州大学応用力学研究所の柳哲雄教授や事務局長である九州大学応用力学研究所の松野健教授をはじめ、数多くの実行委員のご理解とご協力のもと、2011 年度日本海洋学会秋季大会におけるネットワーク/ウェブシステム関連の運営全般を任せていただきました。大変貴重な体験をすることができました。この場をお借りして、大会事務局の実行委員各位に感謝の意を表します。

